



TITLE:

ガラスの工業發達階段説

AUTHOR(S):

堀江, 保藏

CITATION:

堀江, 保藏. ガラスの工業發達階段説. 經濟論叢 1931, 33(1): 138-145

ISSUE DATE:

1931-07-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/130049>

RIGHT:

會學濟經學大國帝都京

叢論經濟

號一第 卷三十三第

行發日一月七年六和昭

（禁轉載）

論叢

效用經濟と勢力經濟……………文學博士 高田 保馬
新地租の不公平と其匡正……………法學博士 神戶 正雄
稅率論……………經濟學博士 沙見 三郎

時論

稅制整理の目標……………法學博士 神戶 正雄

研究

收穫高と米價との關係……………經濟學士 八木 芳之助
東海道濱松宿に關する一考察……………經濟學士 大山 敷太郎
アルフレッドの工業立地理論に就て……………經濟學士 菊田 太郎
米の生産地相場と消費地相場との相關々係……………經濟學士 谷口 吉彦

說苑

グラスの工業發達階段說……………經濟學士 堀江 保藏
費用概念考察の出發點……………經濟學士 熊本 吉郎
國勢調査てふ用語……………經濟學士 岡崎 文規

附錄

新着外國經濟雜誌主要論題

説苑

ガラスの工業發達階段説

堀江 保藏

量に *An Introduction to Economic History*. (加藤博士譯、綜合經濟史) を著して特色ある經濟發達階段説を立てたハーバート大學のガラス教授は、更に *Industrial Evolution* 1930. に於て、工業發展の大勢を獨特の見地から眺めて居る。本書の中、工業發達の階段に關する部分は、特に興味多く考へられるから左に之を紹介しよう。

ガラスの工業發達階段説は工業の組織 (organization) を目標として立てられたものである。工業組織とは、財貨が需要せられ、生産が實行せられ、而て最後に需要が充たされる、此の全過程が行はれる仕方をいふ。此の標準よりして自家用工業・小賣制手工業・卸賣制手工業・集中制工業の四階段に分つ事が出来る。

一、自家用工業 (usufructure) これは工業が自己のために、自己の材料を以て、自己の理想及便宜に應じて

行はる、階段であつて、他人に賣らざる事を其特色とし、更に次の三つの階梯に分つて其發達を考ふる事が出来る。

(イ) 純家庭的のもの (purely domestic phase) 家族が原料を所有するのみならず、總ての加工を施し且家族内で消費するものである。採取經濟時代・牧畜遊動經濟時代・定住村落經濟時代の工業は大體之であつたと見てよい。現在に於ても漬物の製造、種々の修繕はこの形態で行はれ、衰頹しつつはあるが尙ほ、我々の經濟生活に重要な役割を演じてゐる。

(ロ) 第二は外部勞働 (outside labour) が用ひらる、場合或は外部の設備 (outside plant) が利用せらる、場合である。純家庭的工業に於て或は大工に、或は製靴に優れた者が出て來ると、或家族は其等の熟練者を招じて、或は一日、或は一個月間、賃銀のみならず食糧・住居を與へ、原料を提供して自家用の製品を作つてもらふ場合が生ずる。これ外部勞働を利用する場合であつて、略々定住村落經濟と同時に始まつた。中世の諸

侯が扶持を與へて工匠を拘へし例は各國に見らるゝ所であり、前世紀半頃のロンバルデーの裁縫師や靴師極く近世迄存在せるステイリアン、アルプスの巡回靴職も之に屬し、現に支那には種々の修繕職にかゝる例を多く見る。之は支那に大家族制度が存續して二男以下は自己の技術以外に賣るものなきを以てである。

外部設備の利用は、自己の原料に、他人の設備を借りて加工するものであつて、例へば水車を借りて粉を挽くが如き事は多く行はれたところであらう。

(ハ)第三は外部の勞働と外部の設備とが併用せらるゝ場合である。例へば古代ギリシャに於て、村の鍛冶屋に依頼して自己の原料から製品を得た場合は屢々見らるゝ所であり、中世を通じて多くの地方に於て、村人は彼の穀物を地主の水車場へ持參し、水車番に挽いてもらふ事が廣く行はれた。現在に於ても裁縫師に屢々其例を見る。

以上の三階梯の何れをも經て來た典型的のものは靴の製造と粉挽とであらう。三階梯を通じて、何れも賣

る爲めの工業ではないから、供給過剰や價格の現象は起らないが、外部勞働使用の場合には賃銀現象が起り外部設備の利用に對して使用料を支拂ふ場合には、恐らく利子の要素も包含せられてゐるであらう。然し勞賃や利子に關する問題は起らず、起るのは只ごまかしの問題のみであつた。

二、小賣制手工業 (retail handicraft) これは自家用工業に對して販賣用工業 (marketing) の最初の階段である。其本質は、普通に考へられてゐるやうにギルド制度でもなければ全工程を一貫して行ふ事でもない。又終局の消費者に賣る事でもなければ動力機械を用ひない事でもない。例へば晒工場は水力を用ふるも尙ほ小賣制手工業の好例たるを失はざる如きである。其要點は、工業者が、資本家商人又は工企業家の媒介なくして直接消費者に小賣するにある。自家用工業に於て製品に餘剰を生ずるとか、外部勞働者が自ら原料を提供する處に其の發生を見る。

小賣制手工業には、村落に起原を有するものと都市

に起原を有するものとが考へられる。前者は未開人が其餘剰生産物を他種族のそれと交換する所に發生するのであつて、遊動民が其生活の餘暇に作れる製品を交換するが如き其好例である。定住村落時代にも勿論存在するところであり、商業都市が發生すると尙更村落製品の吸收旺盛となり、時には男子が製作せるものを女子が賣歩くといふ事も行はれる。後者は既に工匠が存在して、道具と原料とが彼に所有せらるゝ場合である。又前者は餘剰生産物の販賣を主とする故に、注文生産は稀であつて、需要者の門を叩くのを普通とする。反之、後者は或は注文生産を行ひ、或は店賣をも行ふ。店賣に於ては、仕事場兼用の店舗に需要者の來るを待つ事が多い。經濟發達上重要なのは後者であつて、専門化の點、ギルド制度の點、店舗の點等注目すべき所である。

小賣制手工業に於ては、自家用工業と異り、工匠が原料を準備する結果、製品選擇の範圍廣くなり、従つて製品の標準を高める。手工業者はより専門化し特殊

の技術が此制度の王座を占める事となる。殊に販路は未だ狭小なる結果、製品の良不良は忽ち彼の名聲に響いて來るのであつて、ギルドの規約に先づ此點が留意せられてゐるのは、かゝる状態に起因するのである。

又工匠が自ら原料を準備する事自體、及び店賣の發展即ち製品にストックの豫想さるゝ事は、此制度の手工業に資本主義的要素を介入せしめるものである。更にそれが販賣を目的とする結果、取引業務を附帶し、價格現象が生じて貨幣が價值尺度となり、交換の媒介となる。そして、取引業務に關する専門家が生じて工匠の地位を脅かす事ともなる。

三、卸賣制手工業 (wholesale handicraft) 之は小

賣制手工業に對して、規模の大小よりも寧ろ販賣過程の間接性に其特徴がある。即工匠が商人又は工企業家によつて處分せらるゝ商品を生産する制度であつて、或程度までは地方的局部的市場に於ても發達するが、都市間の商業及大都市の市場に應じて發達するのが普通である。未開人に文明國の商人が接觸する場合、古

代ギリシャ・ローマ諸都市の工業、中世諸都市の工業、十八世紀末葉乃至十九世紀初頭の米國の工業に多く其例を見る。そして之には獨立・從屬の二階梯がある。

(イ)獨立卸賣制手工業 工匠が商人又は工企業家に制肘せられざる場合即ち、原料・道具等を自ら所有し自己の意向で生産し、自己の欲する時處で賣る場合であつて、田舎に於て先づ發生した様に思はれる。例へば農夫が葡萄酒を醸造して買ひに來た酒商人又は居酒屋へ賣る、そして前者は都市又は他地方へ、後者は消費者へ賣るが如きものが其例であつて、此例は恐らく歐洲中世に於ける獨立卸賣制手工業の典型的なるものであらう。都市にあつては單に商人の影響からのみならず、或工匠が其製品を全然又は主として他の工匠に賣る、例へば織屋が織物を漂屋に賣る、が如き場合から發達し、歴史的には恐らく中世の末葉頃此形態が現はれたであらう。此階梯にあつては親方は經濟上、法律上獨立を保ち、若し職人、徒弟ありとせば彼等は將來親方となる見込は尙ほ存在する。

此階梯に於ては専門商人が重要な地位を占むるはいふ迄もない。彼等は商品を買占め、より大なる市場に入り込むために十分なるストックを持つだけの資本を必要とする。かくて工業資本と商業資本とは分離し後者は前者に比し頗る大なるを要する結果、商人の組合が必要となる。家族の組合は西歐に於ては一三五〇—一五五〇年頃の著しい現象であつて、メヂチ家・フツガー家の如きは其の尤なるものである。

(ロ)從屬卸賣制手工業 獨立手工業者が無能・疾病・不況等のために、支拂能力以上に商人から借金を受けざるやうになると、富裕な商人は常に彼等を利用し、彼等の報酬を僅かに生存に必要な程度に切下げる。又有利な原料が遠隔地にのみ得られるが如き場合、彼等は勢ひ商人に屈せざるを得ない。此傾向は商人が有力なる組合の一員たる場合に著るしく、かくて手工業者は其獨立性を失ひ、悪くすれば、商人の道具で働き、商人より前貸を受けた金で衣食を調へ、従つて仕事の選擇を失ふ等殆ど工業労働者に等しき状態に陥る。かく

て商人は單なる商人ではなく、工企業と呼ばれる。工企業家は又都市の親方からも發生する。都市が小さな市場町から工業都市に發達すると、富裕な工匠は、自ら工業に従事する事は勿論、直接仕事を監督する事をも止め、専ら原料を購入して他の親方達に加工せしめ之を販賣するといふ商業方面にのみ與はり、所謂工企業家となるのである。十三世紀のフランダースの織匠に其例を見る。此の階梯は現在にも相當行はれ、所謂 sweat shop system 之であつて、只に都會にのみならず、土地の貧しい農村に於ても其例が見られる。

手工業が獨立の地位を失ふと勢ひ勞賃の低下するのが此制度の最大の缺點であつて、而も手工業者達が協力して企業家に對抗する機會は頗る乏しいのである。

四、集中制工業 (centralized system) 卸賣制手工業と同じく、都市間の取引が盛んになり、又は大都市經濟が都市經濟に代らんとするに際して、商人が工業の過程を統制せんとするより起しりしものである。一つの大きな建物の中に職工が集まり、一個人又は商會の

指揮の下に工業に従事するを其特徴とし、製品が卸賣せらるゝ點に於ては、前階段と異らない。之には其發展程度に従つて次の二つの階梯がある。

(イ) 中央職場制工業 (central workshop) 此の制度は從來自己の住居又は店舗で働いて居た手工業者 (主として從屬卸賣制手工業者) が、工企業家の經營する建物の中に集められたものである。集められた所以は、企業家が動力機械使用能力を利用するにあるのではない。何故ならばかゝる機械は未だ使用されてゐないから。それは一には職人の訓練、二には分業を行ふ事によつて、製品の不斷の供給、製品の増加を計らんが爲めである。例へば從來の散在制度にあつては、職人は種々の仕事に従事し、時には魚釣や耕作に赴いたものが、此制度になると毎日そして終日一個の仕事に與はる事になる、同一人が同一の仕事に従事する結果は目ら分業組織を伴ふ。かくて企業家は現在の需要を満足に充たし得るのみならず、將來の注文に時を違へず應ずる事が出来るやうになるのである。

中央職場制工業は、前述の如く發生的には發展せる都市經濟又は初期の大都市經濟と共に起りしものであるが、歴史的には古代エジプト及ギリシヤにも行はれた。尤も此等は當初自家用工業として行はれ、製品に餘剩を生ずるに至つて販賣用工業に變化したものであるが。中世寺院にもかゝる制度があり、一六六二年に王立となれる有名な佛蘭西のゴブラン工場も此制度の典型的なるものである。十八世紀に於ては其例頗る多く、近代英國の陶磁器業も此の制度に屬し、又十八世紀の米國に於て、工場と呼ぶる、ものは事實上殆どこの制度に屬する。

此制度によつて消費者は多大の便宜を得る事となつたが、他方道德上、衛生上の弊害を新に生じ、又職人は自由を束縛されて勞働者と化しこゝに近代的勞働組合の成立を助くる一要素ともなつた。更に此制度の著しい効果は、時間の觀念を發達せしめた事であつて、時間が貨幣と同様價值の尺度と見らるゝに至つた。

(ロ)工場制工業 (factory system) 中央職場制工業に

ガラスの工業發達階段説

一步を進め、動力機械を使用し、多數の勞働者が分業組織の下に生産に従事するに至つたものが工場制工業であつて、之に就ては詳説するを要しない。只注意すべきは、工場即ち工場制工業に非ざる事これである。

工場は工業の技術的方面であつて、*ミ*と叫ばれるものも亦さうである。*ミ*を道具と工場との中間に置く人もあり、手工業の後に置く人もあり、工場と同一視する人もあるが、之は決して工業發達の一階段を構成するものではない。例へば自家用工業の階段に於ても小賣制手工業の階段に於ても、亦卸賣制手工業の階段に於ても用ひられてゐるからである。工場に就ても同様であつて、例へば一七七〇年に紡績工場を創始せるアークライトは、工場の父に非ず、工場制工業の父であつて、此處に産業革命の始期が劃せらるゝ、所以である。即工場制工業は技術的方面のみならず、原料の購入・生産・販賣・資金の融通等工業の全組織を包含せる概念である。

蒸汽機關が動力として用ひらるゝに及んで、工場は

原料の獲得、労働者の供給、製品の販賣に便利なる都會に移動する事となつた。又其經營に大資本を要する結果資本の結合を促し、或は企業の集中或は獨占をもたらし事となつたのも、工場制工業の經營方面の發達である。生産過剰に由來する恐慌や、近代の労働運動が主として工場制工業の附隨現象である事は言ふを俟たない。

以上、ガラスの工業發達階段説の大様を述べた。終りに之をビュツヒヤーの同じ階段説^{*}と對比しよう。彼も亦工業發達階段の標準を工業の組織に求めてゐる。工業組織 (Gewerbestem) とは工業經營の内部的秩序のみならず、工業が國民經濟的組織の全體の中に入り込む仕方を指すのであるから、ガラスの工業組織の概念と略々一致する。彼によれば、第一は家内仕事 (Hauswerk) である。これは、家庭内部に於て、自己のために、自己の原料に加工する階段であるから、その意味に於てガラスの自家用工業と全く同一であるが

彼がその第二段に、種族間の特産物の交換せらるゝ階梯を置いてゐる點に於てガラスと異なる。

第二は賃仕事 (Lohnwerk) であつて、ビュツヒヤーは之を出仕事 (Stoß) 及居職 (Heimwerk) の二つに分つてゐる。前者はガラスの自家用工業の第二階梯である所の外部労働を使用する場合に相當し、後者は同じく第三階梯である所の外部労働並に外部設備を利用する場合に相當する。その關係は暫らく描き、此等を、ビュツヒヤーは賃仕事として家内仕事の次に置くに對しガラスは自家用工業に屬せしめてゐる點に、兩者の著しき相違がある。これは、ガラスが商品としての工産物の生産なりや否やに重點を置くに對し、ビュツヒヤーは工業者なる一職業階級が獨立せるや否やに重點を置く結果生じたものである。

ビュツヒヤーの第三階段は手工業又は狹義の價格仕事 (Handwerk od. Preiswerk i. e. S.) であつて、ガラスの小賣制手工業に相當するものであるが、顧客生産に限定せる點に於て稍々狭く、又手工業なる語は、グ

* Konrad; Handwörterbuch der Staatswissenschaften. 4. Aufl. 4. Bd. SS. 966—999.

ラスも述ぶる如く、曖昧であるといはねばならぬ。

第四の家内工業或は前貸制工業 (Hausindustrie od. Verlagsystem) 及び第五の工場工業 (Fabrik) は、夫々ガラスの、從屬卸賣制手工業及び工場制工業に略々一致する。

以上兩者の工業發達の階段を對照して表示すれば左の如くである。

ガラス

ビュツヒヤー

一、自家用工業

イ、純家庭的……………一、家内仕事

二、賃仕事

ロ、外部勞働……………イ、出仕事

外部設備

ハ、外部勞働及外部設備……………ロ、居職

二、小賣制手工業……………三、手工業

三、卸賣制手工業

イ、獨立卸賣制手工業

ロ、從屬卸賣制手工業……………四、家内工業

ガラスの工業發達階段說

四、集中制工業

イ、中央職場制工業

ロ、工場制工業……………五、工場工業

兩者の工業發達階段說は夫々兩者の經濟發達階段說に即して立てられたものであるから、俄かに其價值を比較し得ない。然しガラスが、工産物の生産者より消費者に渡る全過程を重視し之に従つて用語を統一せる點は注目し値すべく、又ビュツヒヤーが注意しつつも重要視せざりし中央職場制工業^{**}を、工場制工業の前の一階梯として置きし點は、之を認めなければならぬ。かくてガラスの工業發達階段說は、ビュツヒヤーのそれに比して若干の特色を示し、一國一地方の工業又は或種の工業に就て其發達を論ずる場合、頗る明確に事實を把握し得るのみならず、あらゆる型（型とは階段の投影をいふ—ガラス）の組織のものを包含せる近代工業の正確なる認識に役立つところ亦少しとせないであらう。

^{**} Bücher は Manufaktur (工場手工業)と呼んでゐる。Marx は此の階段を重要視してゐる。